

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に地域密着型サービスとしての理念を取り入れ、作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや朝礼時に唱和し、理念の実践に向けて日々、取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、ご家族、町内会長、民生員、地域包括支援センターの方にホームの理念や活動を報告し理解していただけるよう取り組んでいる。	○	地域に支えられるホームとなるよう、運営推進会議を形より、方法や内容のあり方を更に検討したい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩の際、挨拶をしたり、地域の子供会と合同で夏祭りを開催している。また、ホームの集会場を地域に開放している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃に入居者様と参加、地域行事の際、椅子やテーブルの貸し出し、子供会と合同の夏祭り開催など、地域の人々との交流に努めている。	○	インフルエンザなどを考慮しながら、ご家族の方の理解を得た上で、小学生との交流やボランティアの受け入れを積極的に行いたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に関する相談を電話や来訪にて受けている。また、ホーム見学や実習生、ボランティアの受け入れを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員で意見を交換し、取り組んでいる。また、自己評価でできていないところは、ホーム全体の目標に掲げ、改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況など報告し、ご家族、地域の方々から、ご意見、ご要望を頂き、日頃のケアやサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新代行、訪問調査員訪問時、情報開示、事故報告書の届出、包括支援センターの運営推進会議の参加など、機会を多く持てるようにしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ユニットリーダーなどの職員代表者が、外部研修に参加し、研修で学んだ事をホーム内研修の際に報告し、全職員に周知している。すでに、後見人制度をご利用されている方がいる。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、ホーム内研修でも取り組んでいる。また、事故対策・身体拘束委員会を設置し、虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、契約書、重要説明事項などを提示し、説明を行い、重度化した場合の指針と合わせ、ホームとしてできる事、できない事を説明している。また、質問や分からない点がないかお尋ねし、お答えしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケア、入浴、居室滞在時など、話しや すい機会に声かけをし、また、ホーム周辺の 散歩や行事、家族会、ボランティアの受け入 れなどで外部の方との交流など話しやすい雰 囲気づくりを心掛けている。個別に受けた内 容は、ユニット会議などで共有し、改善に努 めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月、ホーム便りの送付と、金銭管理の報告 を個々に行っている。また、面会時での報告 や、状況に応じて、電話での報告も随時行っ ている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議へのご家族代表 者の参加、家族会の開催、ご家族様アンケ ートの実施と改善計画の作成、苦情窓口の掲 示など、苦情を受けやすい環境づくりを心が けている。また、情報は共有し、改善に努め ている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	合同会議、ユニット会議を毎月実施し、意見 交換の場を設けている。また、個別に対応し 意見を聞く機会を持ち、運営への反映を行っ ている。	○	リーダー会議は不定期なので、定期的に毎月 実施できるようにしたい。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事、外出、新規入居者など人数確保が必要 な場合は、調整し、協力体制を整えている。 また、緊急連絡網と緊急時マニュアルを作成 し、緊急時は休日者も含め全員で対応できる 協力体制がある。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時的に人員不足となる場合、ユニット間で 協力し、応援という形で少しずつ介入し、急 激に変化しないよう考慮している。また、新 入職員を迎えるときは、馴染むまで指導をつ ける体制で臨んでいる。	○	入居者様が高齢化することにより、ADLの低 下など介護量が増加し、人員不足になる。人 員を増加する予定であるが、グループホーム の対象でなくなった場合の移行先や時期のご 理解をして頂くための今後の対策の検討。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	原則を守り、年齢、性別などは問わず採用し、就業規則に従い一人ひとりが、経験を生かし、成長できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政が実施する人権教育、啓発運動の研修に参加し、取り組んでいる。また、ミーティングの際に伝達をし行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に自由に参加できるよう、研修内容をお知らせ掲載版や口頭で伝達している。また、内部研修で情報を共有できるように伝達を行っている。法人として、資格取得のための助成制度などがある。	○	勤務表作成時、個人の経験や能力、希望に合わせ、平等に職員全員が、研修に参加できるように配慮し、取り組みたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動に参加している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日や有給休暇など希望時にとりやすいように声かけを行い考慮している。また、職員1人1人の悩みなどを聞く機会が持てるよう声掛けを行っている。	○	確実に休憩をとるための、人員増員、環境設定の取り組みを積極的に行っていききたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	雇用形態に関わらず、全員の人事評価を実施し、評価に応じた昇給がある。資格取得手当、研修費の会社負担や勤務で参加できる体制など、向上心を維持できる環境づくりを行っている。	○	法人の実施する、出張研修にも参加し、更にステップアップへの意欲を高められる様に取り組むたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学時は可能であれば、ご本人の同行をお願いし、入院中などは、依頼者に許可を得、訪問し、面談など可能な限り傾聴し、決定まで時間がもてるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や入院先の訪問、面談や電話相談など可能な限り対応し相談を受ける。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を伺い、状況に応じて助言を行っている。また、他のサービスが必要な場合は、紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な分野や残された力を見出し、活躍していただくことにより、職員と入居者が、共に学び、支えあう関係を築いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなど行事では、職員と同じように役割を持って参加して戴いたり、誕生日会など一緒にご本人を祝うなどご家族と一緒にご本人を支えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、ホーム便りの発送、面会時や電話でも近況を報告し、行事や家族会を開催するなど、本人とご家族が、より良い関係が築いていけるように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会や行事で食事を一緒にとるなどの機会を作り、また、臨時の面会などもご家族や後見人の方に了解を得た上で面会できるように支援している。また、ご家族のご協力により、外泊や外出も行っている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う入居者様同士の座席配置にし、会話や助け合いが出来る環境づくりを配慮し、必要に応じ、スタッフが介入している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所決定後も入院先にお見舞いに行ったり、行事の案内などは送らせて戴いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時、ご家族の方から情報を戴いたり、入居者様の言葉や表情、行動等で、ご希望やご意向を把握し、カンファレンスにより、介護計画に反映している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関わっていた、ケアマネージャーや事業者の方、ご家族、ご本人様から、基本情報、バックグラウンド、アセスメント、これまでの暮らしを把握している。入居中も、本人、ご家族より、情報把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事、排泄、睡眠、水分量、検温など一般状態をホーム独自のチェック表に記載し、また、個人記録や日誌、申し送りなどにより、情報を共有し、全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を尊重しながら、一人ひとりに合った、ケアカンファレンスやユニットミーティング等で、意見や気づきを介護計画に反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回ケアカンファレンス実施し、さらに、入居者様の状態の変化に応じ、往診医やご家族、ご本人とその都度、相談しながら、介護計画を見直している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すると共に、個人記録で、生活の様子や会話、気づきなどを記録し、ケア日報や排泄、水分チェック表なども、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密に連携を取り、健康管理を行っている。入院された場合も、定期的に訪問したり、医師やご家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。通院等も本人やご家族の状況に応じて個別に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事への参加や、ボランティアの協力、緊急時の警察との連携、消防、公民館、民生委員などと協力しながら支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センターのケアマネや、地域の医療連携室との連携により他のケアマネの連携は取れている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネージャーが、運営推進会議に参加されていることにより、情報交換が行え、地域包括センターと協働できている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を確認し、かかりつけ医による定期的な往診を受け、更に、症状に応じて他科受診も支援し、適切な医療が受けられるように医療連携を行っている。診療の結果などは随時ご家族へ情報提供している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が、認知症に知見が深い為、定期的な診察により、入居者様の状態を熟知されており、随時、指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時、職員として看護師を配置しており、24時間の対応が可能である。常に相談でき、健康管理や症状変化に即応し支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族と病院の医療連携室、医療スタッフとの早期退院に向けた相談、連携を行い、実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より重度化した場合や終末期についての話し合いは行っているが、状態が変化した場合は、必要に応じてその都度、話し合い方針を決めている。情報は、ご家族、かかりつけ医、職員で共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームとして、できる事、できない事を、ホーム全体で見極め、看護師、医師の協力のもと、可能な限り、入居者様がより良く暮らせるように取り組んでいる。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族様などから、入居者様の情報収集を充分に行い、その方のなじみの品物を持参して戴いたり、ご家族の方の面会の協力や、担当スタッフ（プライマリー）などを決め、急激に変化しないよう配慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入社時に秘密保持について説明し同意している。また、日常のケアの中でもプライバシー確保や個人情報の保護が保てるように内、外の研修を行い、声を掛け合っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様に思いや希望を表現しやすいように、声かけをおこない、複数の選択肢を提案するなど、自己決定ができ納得いく生活ができるよう努めている。また、自己決定が困難な方には、ご家族の協力を得ながら希望に添えるよう配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースや希望に合わせての支援を心がけているが、その日の勤務体制などから、業務優先になってしまうことがある。	○	新規入職されるので、是非、みんなで新入職員を支え、より良いケアのためマンパワーが発揮できるようにしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれについては、担当制にし、入居者様一人ひとりの好みに合わせて、支援できている。美容は、なじみの訪問美容を利用し、本人やご家族の希望に沿って行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を普段の会話から聞き取り、献立に活かし、食事は同じものを一緒に摂り、テーブルを囲むなどして、楽しく食事できるように雰囲気作りに努めている。状況に応じて、個別の食事を提供している。食事の準備や片付けは、能力に応じて実施している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好で飲み物の内容を他の方と変更したり、個別に対応している。また、外出時に、ご本人で好きなおやつを選んでいただくなどの機会を作っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用することによって、排泄パターンを把握し、声かけや誘導により、トイレで排泄していただけるように支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望や体調に合わせ、入浴できるよう支援できている。重度の方は清拭、足浴などで対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中に活動性を高める散歩や体操を行い、生活リズムを整えている。また、日中でも、体調や表情、希望等により、休息できるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の得意なことを把握し、習字のできる方は献立を書くなどの役割を持ち、個々の能力を活かし、楽しみごと等を提供、支援している。散歩や体操、レクリエーション活動なども参加していただいている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、お小遣いは、お預かりしており、希望時一緒に買い物に行き商品を選んで載っている。	○	能力に応じて、付き添いでレジでの支払いなども経験できるようにしていきたい
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブに行き、季節を感じていただいている。また、定期的に外食に出かけている。重度の方はベランダで日光浴を行ったり、庭を眺め、外気に触れることができる。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物や外食、お祭り見物など希望されるところに外出できるように支援している。また、ご家族の方に、普段いけな場所への外出の支援協力を載っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解を得た上で、希望されるときに電話をかける支援を行ったり、取次ぎをし、お話をいただいている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問された時には、リビングや居室など要望に合わせて、ご案内したり、会話を楽しんでいただけるように、時には、職員が間に入るなど支援している。突然の訪問も、ご本人の表情などから判断し、気持ちよく面会できるようフロアで面会して頂いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、外部研修やホーム内にて勉強会を実施し、身体拘束のないケアの意識づくりや実施に取り組んでいる。また、事故防止委員、身体拘束防止委員を設置している。	○	行方不明などの予防を道具でなくアクティビティやケアで強化できるよう心掛けたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵については、ご家族より、「安全の為、鍵をかけてほしい」と要望があり、家族全員の同意のもと施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な巡視や入居者様がいるフロアは常に見守りがいる状態とし、所在や様子を把握し、声かけや付き添いを行っている。死角にはミラーを設置し、転倒の危険性の高い方は、ご本人、ご家族の了承を得て、センサーマットや鈴を設置し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、爪きりなどはご本人ご家族の了承を得て管理し、必要時に職員の見守りなどで対応している。消毒液などは、常時目の届かない場所へ保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部に事故対策委員があり、全ホームの指導、管理を行っている。また、事例を共有している。当ホームでも、事故報告書などを合同ミーティング時に行い共有している。事故対策員も設置している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルや勉強会を通じて、訓練しているが、全員が熟知しているとはいえない。	○	消防署の講習などを積極的に受け、共有できるようにしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルを作成している。消防署の協力のもと、年2回、避難訓練を行っている。また、日頃より、地域の人々に協力を依頼できるよう環境づくりを行っている。	○	訓練の一環として、実際の避難場所に散歩やドライブで移動するなど、実施してみる。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクの説明を行っている。また、身体機能低下によるリスク等は、随時、ご家族へ報告し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事、排泄、睡眠、水分量、検温など一般状態をチェック、記載し、また、個人記録や日誌、申し送りなどにより、情報を共有し、全員が把握できるように努めている。異常時は医療連携により、早急に対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師に確認したり、薬剤情報を参考にしている。職員全員が把握できるように確認内容等は記録に残している。また、病状の変化については、その都度、医療連携を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士による 繊維を多く取り入れた献立となっており、水分を定期的に補給し、水分量をチェックしている。体操や散歩など個々の状態に合わせて、身体を動かす機会を設けている。また、状況に応じて、医師に報告し、下剤の調整を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ、介助を行うなど支援している。義歯の洗浄は必要時介助し、夜間義歯の洗浄消毒や歯ブラシの消毒は職員で管理している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により個別にカロリー計算し、栄養バランスのとれた食事が提供されている。水分は、定期的に補給し、記録している。状況に応じて、看護師や医師に相談し個人に応じた水分量を確保している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努め、感染症マニュアルに従って実行している。また、疑いがあるものに対しては、専門医の診察を受け、早期治療に取り組んでいる。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士が食中毒等の外部研修に参加したり、マニュアルに添った衛生管理を行っている。毎日、調理器具の消毒や夜間布巾などの消毒を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場までの間にスロープや手すりを設置し、安全に配慮している。また、親しみやすいように、玄関や周囲に植木や花壇を配置している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、花や写真、絵画等を飾り、生活感や季節感を取り入れ、家庭的雰囲気を中心掛けている。光の強さは、カーテンで調節し、音の大きさにも配慮している。外出や、お誕生会など入居者様の写真も掲示している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席やテーブル席は、気の合う同士でくつろげる様に配置を心がけており、時には、ご案内している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が大切にしているものや馴染みの物、仏壇、ご家族の写真などを置き、居心地の良い空間となるようご家族の方にも協力を得ている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、窓の開閉、換気扇、空気清浄機、加湿器など職員管理で毎日行っている。温度調節は、温度計と入居者様の状態を見ながら、調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などに手すりをつけるなど入居者様の状態に合わせ、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に表札を掛け、トイレなどは大きく表示したり、お一人お一人の行動を見守りながら、状況に合わせ、声かけなどを行い、混乱や失敗を未然に防ぎ、自立して暮らせるように支援している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や花壇を作り、入居者様が、日常的に活動ができるようにしたり、ベランダで日光浴を楽しめる環境を提供している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・山笠ユニットは、看取りの入居者様のケアを行っており、医療依存度が高い。主治医、看護師との連携を十分に行った上で、介護者として入居者様のために出来ることを協力しながら行っていきたい。
- ・家族会、行事では、ご家族の方と入居者様と、共に過ごす時間を提供し、よりご本人の生活が充実したものとなるように支援している。
- ・緊急時にも地域の方に協力を得やすい環境づくりのために、地域交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念の中に地域密着型サービスとしての理念を取り入れ、作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時に唱和し、理念の実践に向けて日々、取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、家族、町内会長、民生委員の方にホームの理念や活動を報告し理解していただけるよう取り組んでいる。	○	地域に支えられるホームとなるよう、運営推進会議を形より、方法や内容のあり方を更に検討したい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の散歩の際、挨拶を交わし、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気づくりに努めている。また、ホームの集会場を地域に開放している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃に入居者様と参加、地域行事の際、椅子やテーブルの貸し出し、子供会と合同の夏祭り開催など、地域の人々との交流に努めている。	○	インフルエンザなどを考慮しながら、ご家族の方の理解を得た上で、小学生との交流やボランティアの受け入れを積極的に行いたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症に関する相談を電話や来訪にて受けている。また、ホーム見学や実習生、ボランティアの受け入れを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員で意見を交換し、取り組んでいる。また、自己評価でできていないところは、ホーム全体の目標に掲げ、改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況など報告し、ご家族、地域の方々から、ご意見、ご要望を頂き、日頃のケアやサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新代行、訪問調査員訪問時、情報開示、事故報告書の届出、包括支援センターの運営推進会議の参加など、機会を多く持つようにしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ユニットリーダーなどの職員代表者が、外部研修に参加し、研修で学んだ事をホーム内研修の際に報告し、全職員に周知している。すでに、後見人制度をご利用されている方がいる。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加し、ホーム内研修でも取り組んでいる。また、事故対策・身体拘束委員会を設置し、虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、契約書、重要説明事項などを提示し、説明を行い、重度化した場合の指針と合わせ、ホームとしてできる事、できない事を説明している。また、質問や分からない点がないかお尋ねし、お答えしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事、外出などの際に外部者や御家族との会話の機会を持っていただいている。また、居室滞在時、入浴時などお一人の時に声をおかけし、意見を聞いている。それらを随時、報告し、ユニット会議などでケアの方法を検討している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りで個々の日頃の様子をお知らせし、また、面会時の報告や電話など随時、報告を行っている。金銭管理も便りと一緒に毎月報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、来訪時には、意見や不満を気軽に話せるような雰囲気作りや声かけを行っている。定期的で開催される家族会では、活発に意見交換が行われ、意見や要望を運営に反映されている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議、ユニット会議を毎月実施し、意見交換の場を設けている。また、個別に対応し意見を聞く機会を持ち、運営への反映を行っている。	○	リーダー会議は不定期開催なので、毎月行えるようにしたい。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事やミーティング、新規入居者が来られる場合など人数を調整し、協力体制を作っている。また、緊急連絡網を作っており、緊急の際には、それを活用し、すぐに協力できる体制が出来ている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として職員の移動はしないように努めている。異動が必要な時は、入居者の安全性の確保を考え、最小限にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	原則を守り、年齢、性別などは問わず採用し、就業規則に従い一人ひとりが、経験を生かし、成長できるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政が実施する人権教育、啓発運動の研修に参加し、取り組んでいる。また、ミーティングの際に伝達を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、研修内容のパンフレットを置き、自由に参加できるようにしている。また、ミーティングの際に研修報告をしていたり、他の職員にも周知できるようにしている。	○	勤務表作成時、個人の経験や能力、希望に合わせ、平等に職員全員が、研修に参加できるように配慮し、取り組みたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動に参加している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日や有給休暇など希望時にとりやすいように声かけを行い考慮している。また、職員1人1人の悩みなどを聞く機会が持てるよう声かけを行っている。	○	確実に休憩をとるための、人員増員、環境設定の取り組みを積極的に行っていききたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	雇用形態に関わらず、全員の人事評価を実施し、評価に応じた昇給がある。資格取得手当、研修費の会社負担や勤務で参加できる体制など、向上心を維持できる環境づくりを行っている。	○	法人の実施する、出張研修にも参加し、更にステップアップへの意欲を高められる様に取り組みたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学時は可能であれば、ご本人の同行をお願いし、入院中などは、依頼者に許可を得、訪問し、面談など可能な限り傾聴し、決定まで時間がもてるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や入院先の訪問、面談や電話相談など可能な限り対応し相談を受ける。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話を伺い、状況に応じて助言を行っている。また、他のサービスが必要な場合は、紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な分野や残された力を見出し、活躍していただくことにより、職員と入居者が、共に学び、支えあう関係を築いている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなど行事では、職員と同じように役割を持って参加して戴いたり、誕生日会など一緒にご本人を祝うなどご家族と一緒にご本人を支えている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、ホーム便りの発送、面会時や電話でも近況を報告し、行事や家族会を開催するなど、本人とご家族が、より良い関係が築いていけるように支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会や行事で食事を一緒にとるなどの機会を作り、また、臨時的な面会などもご家族や後見人の方に了解を得た上で面会できるように支援している。また、プなどで住んでいた町に出かけたりしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	トラブルを避け、会話が可能になる座席配置にし、自立されている入居者様が介助の必要な方の介助(見守り程度)をするなど助け合いができる環境づくりを行っている。必要に応じ、スタッフが介入している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も、ご家族から電話があったり、ホームに遊び来られる等、関係が保たれている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の方からの情報をもとに、入居者様の言葉や表情、行動等で、ご希望やご意向を把握し、カンファレンスにより、介護計画に反映している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで関わってきたサービス利用事業者の方やご家族、ご本人より、基本情報、バックグラウンド、アセスメント等、これまでの暮らしを把握している。入居中も、本人、ご家族、ケアマネジャー、スタッフ間での情報把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事、排泄、睡眠、水分量、検温など一般状態をホーム独自のチェック表に記載し、また、個人記録や日誌、申し送りなどにより、情報を共有し、全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の希望を尊重しながら、ケアカンファレンスやユニットミーティング等で、意見や気づきを介護計画に反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回ケアカンファレンス実施し、さらに、入居者様の状態の変化に応じ、往診医やご家族、ご本人とその都度、相談しながら、介護計画を見直している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画のモニタリング表を独自に作成しチェックすると共に、個別に、生活の様子や会話、気づきなどを記録している。また、個人記録とは別にケア日報や排泄、水分チェック表などを取り入れ、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密に連携を取り、健康管理を行っている。入院された場合も、定期的に訪問したり、医師やご家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。通院等も本人やご家族の状況に応じて個別に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事への参加や、ボランティアの協力、緊急時の警察との連携、消防、公民館、民生委員などと協力しながら支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センターのケアマネや、地域の医療連携室との連携により他のケアマネの連携は取れている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネージャーが、運営推進会議に参加されていることにより、情報交換が行え、地域包括センターと協働できている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を確認し、かかりつけ医による定期的な往診を受け、更に、症状に応じて他科受診も支援し、適切な医療が受けられるように医療連携を行っている。診療の結果などは随時ご家族へ情報提供している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が、認知症に知見が深い為、定期的な診察により、入居者様の状態を熟知されており、随時、指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時、職員として看護師を配置しており、24時間の対応が可能である。常に相談でき、健康管理や症状変化に即応し支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族と病院の医療連携室、医療スタッフとの早期退院に向けた相談、連携を行い、実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より重度化した場合や終末期についての話し合いは行っているが、状態が変化した場合は、必要に応じてその都度、話し合い方針を決めている。情報は、ご家族、かかりつけ医、職員で共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師を中心にホームで、出来ないことを見極め、かかりつけ医の指示のもと支援している。今後の方針についても、その都度、必要に応じて検討している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族及びケア関係者と情報交換を十分に行い、混乱やダメージを防ぐために、職員の付き添いや見守りなどを強化し、対応している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応に心がけている。記録等の個人情報、他の家族や外部の訪問者に目のつかない様に、棚に収納するなどして。また、内、外部研修で個人の尊厳、プライバシー保護について話し合っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様に思いや希望を表現しやすいように、声かけをおこない、複数の選択肢を提案するなど、自己決定ができ納得いく生活ができるよう努めている。また、自己決定が困難な方には、ご家族の協力を得ながら希望に添えるよう配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースや希望に合わせての支援を心がけているが、その日の勤務体制などから、業務優先になってしまうことがある。	○	人員、勤務体制を整えて、常に、入居者様の希望にそえるようにしたい。新規入職されるので、是非、みんなで新入職員を支え、より良いケアのためマンパワーが発揮できるようにしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれについては、担当制にし、入居者様一人ひとりの好みに合わせて、支援できている。美容は、訪問美容を利用し、本人やご家族の希望に沿って行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事の準備や片付けを行っている。また、入居者様と同じものを食べ、一緒にテーブルを囲むなどして、楽しく食事が出来る様に雰囲気作りに努めている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や飲み物、おやつ、たばこなど、個々の希望や状況に合わせて、楽しんでもらえるように支援している。喫煙は火の管理を職員で行っている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用することによって、排泄パターンを把握し、声かけや誘導により、トイレで排泄していただけるように支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望や体調に合わせて、支援できている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中に活動性を高める散歩や体操を行い、生活リズムを整えている。また、日中でも、体調や表情、希望等により、休息できるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者様の出来ることや得意なことを把握し、一人ひとりにあった役割や楽しみごと等を提供、支援している。散歩や体操、レクリエーション活動なども参加していただいている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、お小遣いは、お預かりしており、希望時一緒に買い物に行き商品を選んで載っている。	○	能力に応じて、付き添いでレジでの支払いなども経験できるようにしていきたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブに行き、季節を感じていただいている。また、定期的に外食に出かけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物や外食、お祭り見物など希望されるところに外出できるように支援している。また、ご家族の方に、普段いけない場所への外出の支援協力を載っている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合、取り次いだり、電話がかかってきた際も、リビングや居室など話しやすい場所を提供している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問された時には、リビングや居室など要望に合わせて、ご案内したり、会話を楽しんでもいただけるように、時には、職員が間に入るなど支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、外部研修やホーム内にて勉強会を実施し、身体拘束のないケアの意識づくりや実施に取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵については、ご家族より、「安全の為、鍵をかけてほしい」と要望があり、家族全員の同意のもと施錠している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な巡視や入居者様がフロアは常に見守りがいる状態とし、所在や様子を把握し、声かけや付き添いを行っている。死角にはミラーを設置し、転倒の危険性の高い方は、ご本人、ご家族の了承を得て、センサーマットや鈴を設置し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、保管、管理が必要なものと入居者様が使用される際に注意が必要なもの（はさみやつめきりなど）に分けて使用している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から、予測される危険を検討し、事故防止に取り組んでいる。また、事故報告やヒヤリハット報告を合同ミーティング時などに共有し、随時、検討することにより、事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルや勉強会を通じて、訓練しているが、全員が熟知しているとはいえない。	○	全ての職員が把握できるように定期的に行い、入社の際にも、マニュアル等で説明する。また、消防署による講習会に積極的に参加する。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力のもと、年2回、避難訓練を行っている。また、日頃より、地域の人々に協力を依頼できるような環境づくりを行っている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクの説明を行っている。また、身体機能低下によるリスク等は、随時、ご家族へ報告し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師やかかりつけ医に報告し、早期発見に努めている。また、状態は、記録に残し、情報を共有している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師に目的や副作用等を質問、確認し、職員全員が把握できるように記録に残している。また、病状の変化については、その都度、看護師に確認している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材などを多く取り入れたり、体操や散歩など個々の状態に合わせて、身体を動かす機会を設けている。また、水分量もチェック、記入し、水分摂取を促している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ、介助を行うなど支援している。義歯の洗浄は必要時介助し、夜間義歯の洗浄消毒や歯ブラシの消毒は職員で管理している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量や水分量を入居者様ごとに記録して把握している。また、栄養士が、カロリー計算を行い、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行やインフルエンザ予防接種など予防に努め、感染症マニュアルに従って実行している。また、疑いがあるものに対しては、専門医の診察を受け、早期治療に取り組んでいる。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士が食中毒等の外部研修に参加したり、マニュアルに添った衛生管理を行っている。毎日、調理器具の消毒や夜間布巾などの消毒を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場までの間にスロープや手すりを設置し、安全に配慮している。また、親しみやすいように、玄関や周囲に植木や花壇を配置している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、花や写真、絵画等を飾り、生活感や季節感を取り入れ、家庭的雰囲気を中心掛けている。光の強さは、カーテンで調節し、音の大きさにも配慮してい。外出や、お誕生会など入居者様の写真も掲示している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙者用のスペースを設けている。ソファ席やテーブル席は、気の合う同士でくつろげる様に配置を心がけており、時には、ご案内している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が大切にしているものや馴染みの物、仏壇、ご家族の写真などを置き、居心地の良い空間となるようご家族の方にも協力を得ている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、窓の開閉、換気扇、空気清浄機、加湿器など職員管理で毎日行っている。温度調節は、温度計と入居者様の状態を見ながら、調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などに手すりをつけるなど入居者様の状態に合わせ、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に表札を掛け、トイレなどは大きく表示したり、お一人お一人の行動を見守りながら、状況に合わせ、声かけなどを行い、混乱や失敗を未然に防ぎ、自立して暮らせるように支援している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や花壇を作り、入居者様が、日常的に活動ができるようにしたり、ベランダで日光浴を楽しめる環境を提供している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の子供会と夏祭りを合同で開催したり、地域の行事には、参加させていただくなど、地域との係わりは深いです。また、ほとんどの入居者様のご家族が、ホームの行事に参加され、夏祭りには、出店のお手伝いをされたり、敬老会では、積極的に寸劇などに参加していただくなど協力していただき、いい関係が、築けていると思います。